

シネラ

fiaf

国際フィルム・アーカイヴ連盟＝FIAFは
映画の保存を目的とする国際団体です。
福岡市総合図書館はFIAFの会員です。

9
No.120

チャード・ソンスイー 回顧展 監督

収蔵作品特集

アジアフォーカス・福岡映画祭2006協賛企画 タイ国王在位60周年記念
タイ映画の巨匠チャード・ソンスイー
監督の回顧上映



ムアンとリット



ブアンとベーン

特集

土本典昭監督特集

水俣病発見から50年。水俣病を記録し続け、
世界的な評価を得た土本監督の特集上映



ドキュメント 路上



不知火海

収蔵作品特集

最新イラン映画

急速に変わりつつある、最新イラン映画の傑作特集



私は15歳



ザリザート



Ciné-là

チャード・ソンスー監督 回顧展

今年、5月に亡くなった
タイ映画の巨匠
チャード・ソンスー監督の回顧上映

9月16日(土)~24日(日) ※休館日・休映日除く
観覧料:500円(大人)400円(大学生・高校生)300円(中学生・小学生)

* 定員制。各回入替制。* チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
* 障がい者の方は無料。福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)
* アジアフォーカス・福岡映画祭のチケットは使用不可

主催:福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ実行委員会
協賛:アジアフォーカス・福岡映画祭実行委員会
タイ国政府観光庁福岡事務所

スパンの血 Luead Suphan

●9月17日(日) 11:00
●9月23日(土・祝) 17:00



1979年/35ミリ
カラー/138分/タイ
日本語字幕付き
監督:チャード・ソンスー
出演:パイロット・サングロリット
ラナー・サラワーン

16世紀、アユタヤ朝時代を舞台にした悲恋ドラマ。隣国ビルマの大王に襲われた村にドゥアンチャンという娘がいた。彼女はビルマの司令官と愛し合うが、最後はタイ軍の先頭に立ってビルマ軍と戦った。タイ版ジャンヌ・ダルクともいえるべき勇壮な戦争映画だが、ビルマ軍を一方的に悪者扱いしていない。

やさ男 Pho Pla Lai

●9月18日(月・祝) 11:00
●9月22日(金) 14:00



1980年/35ミリ
カラー/117分/タイ
日本語字幕付き
監督:チャード・ソンスー
出演:ソム/バット・モーターニー
ナワラット・ユッタナン

ウリットは父親が経営する会社の販売課長だが、仕事は適当にして女性を口説いてばかり。叔母の勧めで結婚させられたウリットだが、なかなか浮気癖はなおらない。とうとう浮気をしたら殺すと、妻に銃をつきつけられる。二枚目半の浮気男と妻のやりとりを軽快に描いた、バンコクを舞台にしたコメディ映画。

傷あと The Scar

●9月16日(土) 11:00
●9月23日(土・祝) 14:00



1977年/35ミリ
カラー/129分/タイ
日本語字幕付き
監督:チャード・ソンスー
出演:ソーラボン・チャトリ
ナンタナー・ガオクラチャー

1930年代のバンコク郊外の農村を舞台とした恋愛ドラマ。若者クワンと村長の娘アムは愛し合っていたが、双方の父親は反目しあっていた。ロミオとジュリエットを思わせる物語で、フランスのナント映画祭でグランプリを獲得、タイ映画で初めて海外映画祭でグランプリを獲得した作品となった。

プアンとペーン Puen-Peang

●9月16日(土) 14:00
●9月24日(日) 11:00



1983年/35ミリ
カラー/132分/タイ
日本語字幕付き
監督:チャード・ソンスー
出演:ソーラボン・チャトリ
ウィロート・クワンタルビ

1930年代タイの農村を舞台とした悲恋ドラマ。美しい姉妹プアンとペーン、そして孤児だったローは兄妹のように育てられた。成長したプアンとローは愛し合うのだが、ペーンもまたローが好きだった。日本で最初に上映されたチャード・ソンスー監督作品で、全編にタイの伝統的な歌や踊り、影絵芝居などが効果的に使われている。

深海の宝石 The Gem from the Deep

●9月16日(土) 17:00
●9月23日(土・祝) 11:00



1987年/35ミリ
カラー/131分/タイ
日本語字幕付き
監督:チャード・ソンスー
出演:ソーラボン・チャトリ
シンチャイ・ホンタイ

1930年代のタイの小島を舞台にした物語。島の若者ルンは、ある日海で大きなルビーを見つける。町と島を往復する船の船長が宝石を狙ってくる。ルンは恋人のカティンに宝石を預けるのだった。コバルトブルーの海と自然の描写が大変美しく、宝石の争奪を巡る物語と、ルンを巡る恋愛が交錯する。

アナザー・ワールド The Two Worlds

●9月18日(月・祝) 14:00
●9月21日(木) 14:00



1990年/35ミリ
カラー/136分/タイ
日本語字幕付き
監督:チャード・ソンスー
出演:チャッチャイ・ブレンバーニット
チャンチャー・チューチェーン

若い女性メニーは骨董屋で古い鏡を購入する。鏡をのぞいてメニーはいきなり鏡の中に吸い込まれてしまう。そこは1893年のタイで、メニーはそこで若い外交官のテブと出会い、タイの独立を保つために働くのだった。タイムスリップを描いたSF映画だが、メニーが過去と現在を自由に往来できるという設定が珍しい。

ムアンとリット Muen and Rid

●9月17日(日) 14:00
●9月24日(日) 14:00



1994年/35ミリ
カラー/120分/タイ
日本語・英語字幕付き
監督:チャード・ソンスー
出演:チンタラー・スッカバット
サンディック・プロムシリ

僧侶のリットは川で溺れていた娘ムアンを助ける。以来ムアンはリットに恋をしてしまうのだが、僧侶のリットは結婚できない。ムアンの父親は、強引に金持ちとムアンを結婚させるのだが、彼女は逃げだしてしまう。19世紀タイの実話に基づいた物語で、ムアンは女性の権利のために戦った最初の女性とされている。

最新イラン映画

9月27日(水)~10月9日(月・祝)

※休館日・休映日除く

観覧料:500円(大人)400円(大学生・高校生)
300円(中学生・小学生)

* 定員制。各回入替制。
* チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
* 障がい者の方は無料。福岡市在住の65才以上の方は半額。
(手帳の提示が必要です。)

冷たい涙 The Tear of the Cold

●10月4日(水) 14:00
●10月7日(土) 11:00



2004年/35ミリ/カラー/103分
イラン/日本語・英語字幕付き
監督:アズイゾー・ハミドネジャド
出演:ナリサ・ビレスアル、ゴルシフ・ファハニ

地雷除去を仕事とする兵士キアニは、クルド人ゲリラ地帯のキャンプに配属される。そこでキアニは羊飼いの娘ロナクに出会う。ロナクは実はゲリラの一員で、キアニを暗殺するように命じられるのだった。イラン国内におけるクルド人問題を扱った作品。クルド民族との共存を呼びかけている。

旅の途中で-FARDA- Tomorrow -Farda-

●9月27日(水) 14:00
●9月30日(土) 11:00
●10月 9日(月・祝) 11:00



2002年/35ミリ/カラー
106分/イラン=日本
日本語・英語字幕付き
監督:中山節夫 出演:穴戸間、保坂尚輝

自動車部品メーカーの社員・井沢の恋人・浩子の父親は、自動車部品の小さな工場を持っていた。ある日浩子の父親が急死。井沢は浩子から強制送還されたイラン人の未払い賃金を持ってイランに行き、浩子と再会する。中山監督とアッバス・キアロスタミ監督が共同で監督した日本・イランの合作映画。

ザ・リザード The Lizard

おすすめ

●9月29日(金) 14:00 ●10月 9日(月・祝) 14:00
●10月 1日(日) 14:00



2004年/35ミリ/カラー/116分/イラン/日本語・英語字幕付き
監督:カマル・タブリズーイ 出演:バーズ・パラスツ、ラナ・アザディワール

この映画の主人公はリザード(とかげ)と異名をとる泥棒のレザです。彼は投獄生活に耐えられず脱獄を計画します。彼の計画はイスラム僧侶に扮して逃げ出す事。まんまと脱獄に成功するレザですが、国外逃亡のため乗り込んだ列車の中で、彼は礼拝を頼まれたりして。国境の村では彼はモスクの新任の僧侶と間違えられ、村に連れて行かれてしまいます。しかたなくレザは村人にたどる説教をします。偽造パスポートの作成のため、闇業者にお金を渡しているところを村人に見つかると、貧乏な人に施しをしていると勘違いされ、人気者になってしまいます。泥棒が僧侶になるという何とも破天荒な物語ですが、イラン国民に熱狂的に支持されたコメディ映画です。イスラム教を冒涇している、一時は上映禁止にもなるなど、大変な話題をまきこみました。たどる説教をしているうちに、それが自然に本当の教えになっていくという楽しい作品で、従来のイラン映画の枠を越えた新時代のイラン映画の傑作です。

ママのお客 Mama's Guest

●10月 5日(木) 14:00
●10月 7日(土) 14:00



2004年/35ミリ/カラー/108分
イラン/日本語・英語字幕付き
監督:タリク・メヘルジュイ
出演:ゴラフ・アディネ、ハサン・フールシラシ

母は甥の軍人ハミドが新妻をつれて遊びにくることになり、歓迎のもとでなをしようとする。ところが貧しいため料理の材料がない。最後は近所に住む人たちがみんな協力して大騒ぎで料理を作り始める。イラン人の「もてなしの心」をテーマにしたコメディ映画で、イランの庶民の心情と生活が暖かく描かれる傑作。

特集 今年はいくつ病発見から50年。水俣病を記録し続け、世界的な評価を得た土本監督の特集上映

土本典昭監督特集

9月6日(水)～15日(金) ※休館日・休映日除く

観覧料: 500円(大人) 400円(大学生・高校生)
300円(中学生・小学生)

※定員制。各回入替制。*チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
*障がい者の方は無料。福岡市在住の65才以上の方は半額。
(手帳の提示が必要です。)

●9月6日(水) 14:00 ●9月9日(土) 14:00

水俣 患者さんとその世界

1970年/16ミリ/モノクロ

ドキュメンタリー/167分

東プロダクション/監督:土本典昭



土本典昭が彼のライフワークともいえる「水俣病」に本格的に取り組んだ最初の作品であり、日本のドキュメンタリー史に残る名作となった。水俣病が原因不明の奇病ではなく、患者たちの運動によって工場排水による「公害」として認められるようになった時期に水俣に乗り込んだスタッフたちは、「水俣病」をあえて病理面からでなく、患者たちと彼らが住む水俣という地域を一つの世界として描いている。

●9月7日(木) 19:00 ●9月10日(日) 14:00

水俣病 その30年

1987年/16ミリ/カラー

ドキュメンタリー/45分

青林舎/監督:土本典昭

回想・川本輝夫

1999年/ビデオ/カラー

ドキュメンタリー/42分

土本仕事部屋/監督:土本典昭

●「水俣病 その30年」:水俣病公式確認から30年が過ぎ、水俣病患者として申請する人は1万5千人にも及んだ。患者たちが起こした裁判は次々と勝訴するが、国と県は最高裁まで争う姿勢を見せ、裁判は長期化し、救済は先送りされる。水俣出身というだけで差別され、保証金目当ての二重患者というわけのない中傷すら受ける。30年を経た水俣に取材した作品。

●「回想・川本輝夫」:水俣病運動において指導的な役割をはたした川本輝夫は、1999年ガンにより急逝する。その死は国内はもとより、海外でも報じられる。晩年には市会議員となり、人間の食の遺産として水俣湾を世界遺産にと提案していた。その川本の足跡を過去の作品や土本自らの個人的に撮影した映像などを再編集したもの。



水俣病 その30年

●9月13日(水) 14:00 ●9月14日(木) 19:00

留学生チュア スイリン

1965年/16ミリ/モノクロ

ドキュメンタリー/51分

藤プロダクション/監督:土本典昭

はじけ鳳仙花—わが筑豊 わが朝鮮—

1984年/16ミリ/カラー

ドキュメンタリー/48分

幻燈社/監督:土本典昭

●「留学生 チュア スイリン」:マレーシア人の留学生、チュア・スイリンは母国の真の独立を訴え、日本で運動を始めるが、これに対し本国は帰国命令を出し、国や大学も彼の身分を取り消す…。当初、TVドキュメンタリーとして企画されながら、裁判係争のために製作中止となり、土本にとって初めて自主製作の形で完成させた作品。

●「はじけ鳳仙花—わが筑豊 わが朝鮮—」:画家、富山妙子は強制連行され、過酷な強制労働の末に死んでいった朝鮮人炭坑夫の姿をリトグラフで書き綴っていく。アトリエでの孤独な創作風景や音楽、語りなどを絵に重ねていくことで、作品として一人歩きできるものにしたいという画家の想いを受けて制作された作品。



留学生チュア スイリン

●9月8日(金) 14:00 ●9月10日(日) 11:00

水俣一揆 一生を問う人々

1973年/16ミリ/モノクロ

ドキュメンタリー/108分

青林舎/監督:土本典昭



1973年、熊本地裁は患者側の訴えを認め、企業に慰謝料の支払いを命じる。この判決後の患者たちの行動を追ったドキュメンタリー。生涯保障を求める患者側に、企業側は慰謝料分の保障のみですますようにする。交渉は3ヶ月半にも及んだ。一方で新認定患者を軽症患者として低額の保障ですますようにする企業側の思惑が暴露され、未認定のまま亡くなった患者の解剖例なども明らかにされていく。

●9月6日(水) 18:30 ●9月14日(木) 14:00

不知火海

1975年/16ミリ/カラー

ドキュメンタリー/154分

青林舎/監督:土本典昭



不知火海。昔から稗やかで漁獲量も豊富だったこの内海が水俣病の舞台となった。水俣病訴訟は患者側が勝訴を勝ち取り、表面的には豊かになったが、患者たちの死への恐怖、苦悩は終わることはない。そして一方では今だ救済の手が届かない人々が多かった…。「水俣 患者さんとその世界」と並ぶ土本典昭による水俣病シリーズの傑作。

●9月7日(木) 14:00 ●9月10日(日) 16:30

みなまた日記 越る境を訪ねて

2004年/ビデオ/カラー

ドキュメンタリー/100分

映画同人シネアソシエ/監督:土本典昭



土本典昭は1995年前後の一年間、東京で開催される展覧会のために、水俣に足を運び、過去40年間に水俣病で亡くなった方の千余名の遺影や仏間を撮影した。その作業の合間に個人的に撮影した水俣の人や風景を自ら再編集した作品である。この時期、多くの問題が未解決のまま、水俣病訴訟は次々と和解という形で決着していく。しかし土本が会った人々の姿、出来事を通して水俣病患者たちの今と未来への想いが描かれている。

●9月9日(土) 11:00 ●9月13日(水) 19:00

ある機関助士

1963年/16ミリ/カラー

ドキュメンタリー/37分

岩波映画製作所/監督:土本典昭

ドキュメント 路上

1964年/16ミリ/モノクロ

ドキュメンタリー/54分

東洋シネマ/監督:土本典昭

●「ある機関助士」:鉄道の安全性をアピールするために鉄道会社がスポンサーとなり企画した産業映画。これを土本典昭はダイヤの過密化による労働強化の実際に触れ、それに伴う機関士たちの分刻みの作業などを細かく分析し、一人の人間が担える安全性の肉体的限界を問う映画とした。土本典昭の初期の傑作。

●「ドキュメント 路上」:東京オリンピックに向け、急ピッチで都市整備が進む東京。交通量が激増し、まさしく交通戦争という様相を呈していた。そうした東京の道路を仕事場とするタクシードライバーの日常を通して、高度成長期の日本における都市、そのメカニズムの中で生きる人間の姿を描いた作品。



ある機関助士

●9月9日(土) 17:30 ●9月15日(金) 14:00

よみがえれカレーズ

1989年/16ミリ/カラー

ドキュメンタリー/117分

記録社=シグロ/監督:土本典昭



アフガニスタンと日本との合作ドキュメンタリーとして企画され、1988年5月のソビエト軍アフガニスタン撤退からその年の12月まで、アフガニスタンのほぼ全域をまわり、難民たちの帰還、戦乱の爪痕、シルクロードの遺物群、戦火の中を生き抜いた人々の姿などを取材した記録映画。

私は15歳

Im Taraneh, 15

●9月28日(木) 14:00

●9月30日(土) 14:00

2002年/35ミリ/カラー/110分

イラン/日本語・英語字幕付き

監督:ラズール・サドレアメリ

出演:タラネ・アリデス、ホセイン・マジュブ

タラネは15歳の少女。カーペット店で働くアミールに求婚されたタラネは、二人が学校を卒業したら結婚する約束をする。しかし次第にアミールと仲違いをするようになり、婚約を破棄する。しかしその時にはタラネは妊娠していた。イランの現代女性の問題を扱った作品。ファジール映画祭最優秀脚本賞、最優秀女優賞を受賞した傑作。

刑務所の女たち

Women's Prison

●9月28日(木) 19:00

●9月30日(土) 17:00



2002年/35ミリ/カラー/106分

イラン/日本語・英語字幕付き

監督:マニジェ・ヘクマット

出演:ロア・ノナハリ、ロア・ティムリアン

1984年タヘレーは新任の刑務官として着任する。厳しく管理をするタヘレーに女囚ミトラはことごとく反抗するのだった。以後タヘレーとミトラの20年に渡る戦いは、次第に友情に変わっていく。本作は初めてイランの女性刑務所内で撮影を行った作品であり、女性囚人の実態を描いた作品として議論を巻き起こした。

生きるために

A Border for Life

●9月29日(金) 19:00

●10月1日(日) 11:00



2005年/35ミリ/カラー/78分

イラン/日本語・英語字幕付き

監督:レザ・アザミアン

出演:アフマド・カルガリー、メイサム・ナエイェズデ

イラン=イラク戦争の時代。山岳地帯で両足を負傷し動けなくなったイラク兵と、両目を失明したイラン兵が出会う。二人は助かるために協力しながら険しい山中を下っていく。80年から88年まで続いたイラン=イラク戦争を題材としたイラン映画は多い。しかし双方が協力しあうテーマは珍しく、現在の政治状況の反映ともとれる。

母ギーラーネ

Gilaneh

●10月5日(木) 19:00

●10月7日(土) 17:00

2005年/35ミリ/カラー/84分

イラン/日本語・英語字幕付き

監督:ラフサン・ニエマティ、モゼン・アフラハバフ

出演:ファティマ・モタマ、アリヤ、バフラム・ラドン

1988年のイラン。ギーラーネの息子のイスマイルも戦争に参加していった。戦争から帰ってきたイスマイルは、イラクの化学兵器により動けない体になっていた。15年の歳月が流れギーラーネは一人で息子の世話を続けていた。現在でも戦争の後遺症に悩む人々を、高齢の母親ギーラーネに象徴して描いた作品。

こんなに近く、こんなに遠く

So Close, So Far

●10月6日(金) 14:00

●10月8日(日) 14:00



2005年/35ミリ/カラー/121分

イラン/日本語・英語字幕付き

監督:レザ・ミル・ギヤリミ

出演:マズドラーイーガン、エルハム・ハミディ

脳神経外科医アーラムは、息子のサーマーンの脳のCTスキャン写真を見て異常を発見する。天体観測に砂漠に出かけた息子に異常を知らせようとするアーラムだが、砂漠の中で車がガス欠になってしまう。近くて遠い親子の関係を描いて、ファジール映画祭作品賞など6部門を独占した傑作。

彼

He

●10月6日(金) 19:00

●10月8日(日) 11:00



2004年/35ミリ/カラー/94分

イラン/日本語・英語字幕付き

監督:ラーバール・ギヤンバリ

出演:レザ・ナジ、トゥラン・ゴルバニ

イラン北西部のサバラン山地に近い村。ムッラーの家は代々村の聖職者を勤めてきた。ある日近くの町の役人が来て、町の聖職者が亡くなったので、町に来てほしいと頼む。そんな時彼の娘が病氣となり、町で手術しなければならなくなる。村に残るか、町へ越すか、ムッラーの心は揺れ動いた。

9月10月

上映スケジュール

1 金	休館日
2 土	アジアフォーカス・福岡映画祭2006 プレイベント
3 日	自主上映[福岡映画サークル2006年第5回例会]
4 月	休館日
5 火	休映日
6 水	(14:00) 水俣 患者さんとその世界 (18:30) 不知火海
7 木	(14:00) みなまた日記 語る涙を訪ねて (19:00) 水俣病 その30年 / 回想・川本輝夫
8 金	(14:00) 水俣一揆 一生を問う人々
9 土	(11:00) ある機関助手 / ドキュメント 路上 (14:00) 水俣 患者さんとその世界 (17:30) よみがえれカレース
10 日	(11:00) 水俣一揆 一生を問う人々 (14:00) 水俣病 その30年 / 回想・川本輝夫 (16:30) みなまた日記 語る涙を訪ねて
11 月	休館日
12 火	休映日
13 水	(14:00) 留学生チュア スイリン / はじけ鳳仙花 (19:00) ある機関助手 / ドキュメント 路上
14 木	(14:00) 不知火海 (19:00) 留学生チュア スイリン / はじけ鳳仙花
15 金	(14:00) よみがえれカレース
16 土	(11:00) 傷あと (14:00) プアンとベーン (17:00) 深海の宝石
17 日	(11:00) スパンの血 (14:00) ムアンとリット
18 月(祝)	(11:00) やさ男 (14:00) アナザー・ワールド
19 火	休館日
20 水	休映日
21 木	(14:00) アナザー・ワールド
22 金	(14:00) やさ男
23 土(祝)	(11:00) 深海の宝石 (14:00) 傷あと (17:00) スパンの血
24 日	(11:00) プアンとベーン (14:00) ムアンとリット
25 月	休館日
26 火	休映日
27 水	(14:00) 旅の途中で—FARDA—
28 木	(14:00) 私は15歳 (19:00) 刑務所の女たち
29 金	(14:00) ザ・リザード (19:00) 生きるために
30 土	(11:00) 旅の途中で—FARDA— (14:00) 私は15歳 (17:00) 刑務所の女たち
10/1 日	(11:00) 生きるために (14:00) ザ・リザード
2 月	休館日
3 火	休館日
4 水	(14:00) 冷たい涙
5 木	(14:00) ママのお客 (19:00) 母ギラーネ
6 金	(14:00) こんなに近く、こんなに遠く (19:00) 彼
7 土	(11:00) 冷たい涙 (14:00) ママのお客 (17:00) 母ギラーネ
8 日	(11:00) 彼 (14:00) こんなに近く、こんなに遠く
9 月(祝)	(11:00) 旅の途中で—FARDA— (14:00) ザ・リザード

土本典昭監督特集

チャード・ソンシー監督回顧展

最新イラン映画

INFORMATION



交通アクセス

当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。
地下鉄：西新駅または藤崎駅から徒歩15分
西鉄バス：*天神〜都市高速経由〜福岡タワー南口(所要時間：昼間で約20分) *博多駅〜都市高速経由〜福岡タワー南口(所要時間：昼間で約25分) 福岡タワー南口バス停から徒歩3分。いずれも、昼間は10〜15分間隔で運行されていますので、大変便利です。お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話 733-3333)に直接お問い合わせください。

自主上映のお知らせ

9月3日(日) 福岡映画サークル2006年第5回例会
●宇宙を夢見て (11:00) ●未来への迷宮 (13:00) ●死という名の騎士 (15:15)
観覧料 / 3プログラム共通券(前売りのみ) 2,000円 前売:1,000円 当日:1,400円
シニア:1,000円 中学生:800円 主催/福岡映画サークル協議会(TEL 092-781-2817)
*詳細については、直接主催者にお問い合わせください。

福岡市総合図書館
映像ホール・シネラ

〒814-0001
福岡市早良区百道浜3丁目7番1号
福岡市総合図書館
(代表) 092 (852) 0600
映像資料課 092 (852) 0608
FAX 092 (852) 0609
福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ
ホームページアドレス
<http://www.cinela.com>

特別企画

アジアフォーカス・福岡映画祭2006

プレイベント

9月2日(土) 観覧料 無料(要招待状)
開場 13:30 / 開演 14:00



今年開催されるアジアフォーカス・福岡映画祭で上映される新作を、プレイベントとして上映。

上映作品

9月2日(土) 14:00



ドバイの恋

2005年フィリピン
35ミリ/カラー/110分
監督:ロリー・B・クイントス

近代的なビル群と、中東の伝統や砂漠などの景観が融合した、魅惑溢れる異郷の大都市ドバイを舞台にした情熱的なラブロマンス。

●観覧方法

官製はがきに住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、お申し込みください。(はがき1枚につき1名)。抽選で240名様にご招待状をお送りします。映画祭公式ホームページからもお申し込みいただけます。

●申込先

〒810-8620 福岡市中央区天神1-8-1
「アジアフォーカス・プレイベント係」

●締切

8月24日(木) 必着

主催:アジアフォーカス・福岡映画祭実行委員会 / 福岡市
共催:福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ実行委員会

アジアフォーカス・
福岡映画祭2006

9月15日(金)〜24日(日)

ソラリアシネマ1、西鉄ホール、
エルガーラホール、NTT夢天神ホール

今年で16回目を迎えます「アジアフォーカス・福岡映画祭2006」では、アジア15カ国・地域の新作・話題作を25作品上映します。上映作品、上映時間等の詳しい情報は、市内プレイガイド、市の公共施設等で無料配布しています「映画祭公式ガイド」をご覧ください。

●チケット

1作品券——前売り 1,000円(当日 1,200円)
5作品券——前売り 4,000円(当日 5,000円)
フリーパス券——前売り10,000円(当日12,000円)
市内プレイガイド、チケットぴあ、ローソンチケットなどで発売中
なお、留学生は学生証を提示すれば、1作品券の当日料金を600円に割引

●映画祭に関する問い合わせは

「アジアマンス・インフォメーションセンター」
TEL 263-8808(毎日8:00〜20:00)

●映画祭ホームページは

<http://www.focus-on-asia.com>

■ホームページ

「うえぶシネラ」をご覧ください。

●うえぶシネラアドレス

<http://www.cinela.com>